岐阜県瑞浪市大湫町からの報告

井澤宏明（ジャーナリスト）

2024年5月30日　FoE Japan 緊急オンラインセミナー

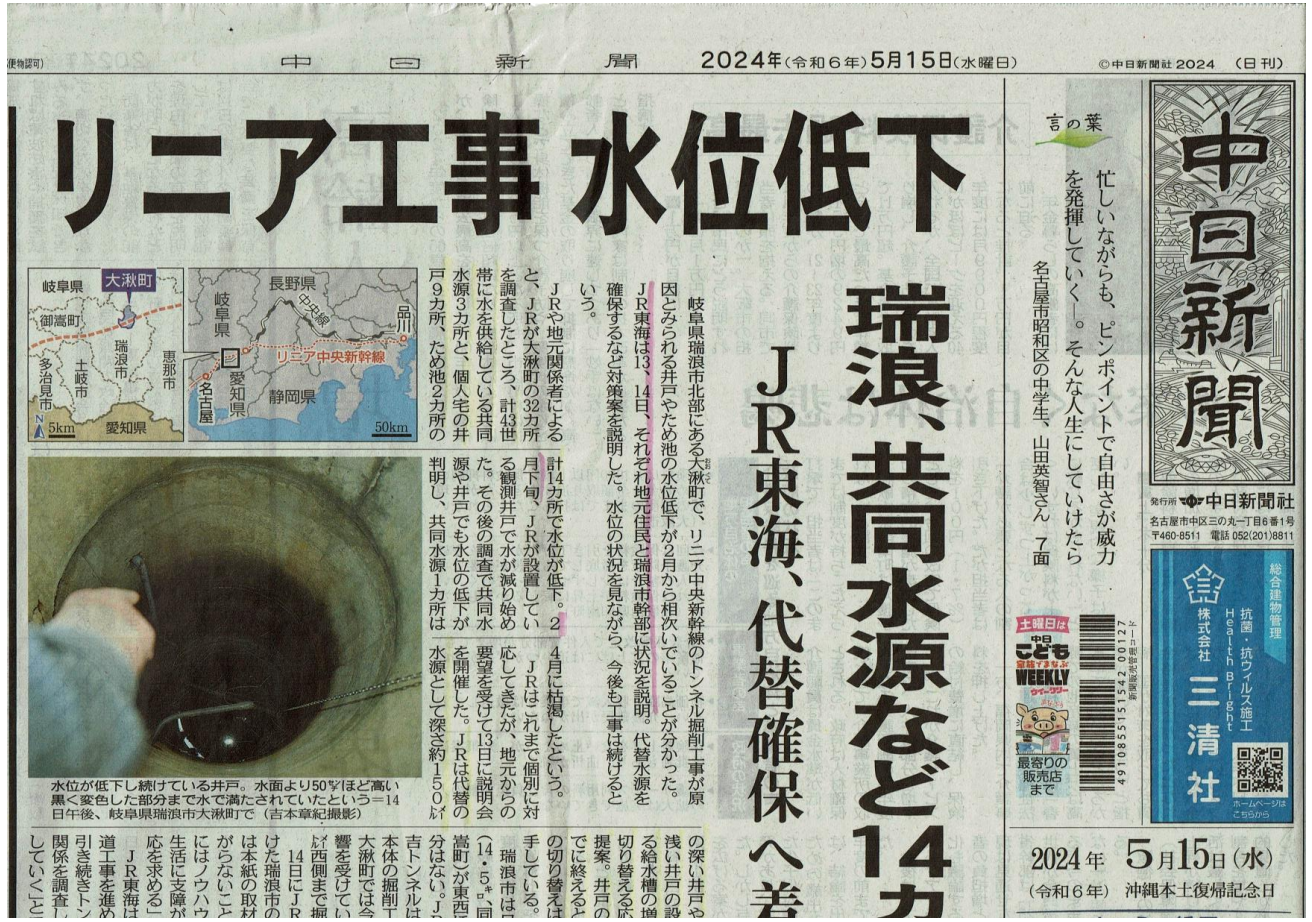
中日新聞2024年5月15日付一面より

中山道の宿場町　大湫（おおくて）

- 江戸から数えて47番目の宿
- 「湫」とは、沼地や湿地帯を表し、峠に挟まれた標高５１０メートルの場所で、水が溜まりやすいことから命名か
- １８６１（文久１）年、和宮降嫁で宿泊

「中山道大湫宿　今昔まち歩きマップ」より

「リニア工事 水位低下」報道



中日新聞　2024年（令和6年）5月15日（水曜日）　©中日新聞社2024　（日刊）

リニア工事 水位低下

瑞浪、共同水源など14カ

JR東海、代替確保へ着

言の葉
忙しいながらも、ピンポイントで自由さが威力を発揮していく―。そんな人生にしていけたら
名古屋市昭和区の中学生、山田英智さん　7面

岐阜県瑞浪市北部にある大湫町で、リニア中央新幹線のトンネル掘削工事が原因とみられる井戸やため池の水位低下が2月から相次いでいることが分かった。JR東海は13、14日、それぞれ地元住民と瑞浪市幹部に状況を説明。代替水源を確保するなど対策案を説明した。水位の状況を見ながら、今後も工事は続けるという。

JRや地元関係者によると、JRが大湫町の32カ所を調査したところ、計43世帯に水を供給している共同水源3カ所と、個人宅の井戸9カ所、ため池2カ所の計14カ所で水位が低下。2月下旬、JRが設置している観測井戸で水が減り始めた。その後の調査で共同水源や井戸でも水位の低下が判明し、共同水源1カ所は4月に枯渇したという。

JRはこれまで個別に対応してきたが、地元からの要望を受けて13日に説明会を開催した。JRは代替の水源として深さ約150メートルの深い井戸や浅い井戸の設置、給水槽の増設、切り替える応急措置案を提案。井戸の切り替えは手続きしている。

瑞浪市は（14・5キロ、同嵩町）が東西分は、JR吉トンネルは本体の掘削工大湫町では今響を受けていけた西側まで掘14日にJRけた瑞浪市の本紙の取材からないことにはノウハウ生活に支障が応を求める」

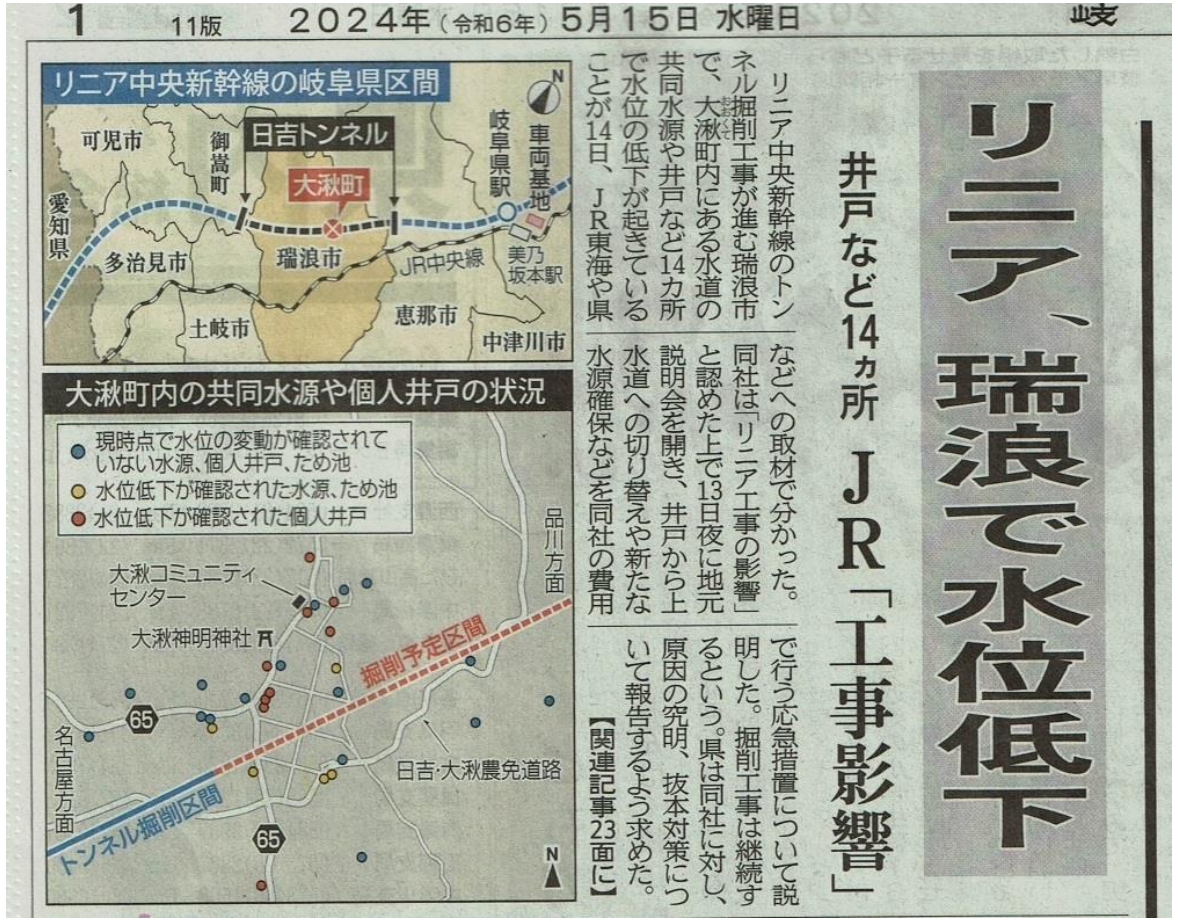
JR東海は道工事を進め引き続きトン関係を調査し

水位が低下し続けている井戸。水面より50センチほど高い黒く変色した部分まで水で満たされていたという＝14日午後、岐阜県瑞浪市大湫町で（吉本章紀撮影）

中日新聞
発行所 中日新聞社
名古屋市中区三の丸一丁目6番1号
〒460-8511　電話 052(201)8811

総合建物管理
抗菌・抗ウィルス施工
Health Bright
株式会社 三清社
ホームページはこちらから
土曜日は 中日こども定期すまなぶWEEKLY
最寄りの販売店まで

2024年 5月15日（水）
（令和6年）　沖縄本土復帰記念日



1　11版　2024年（令和6年）5月15日 水曜日　岐

リニア、瑞浪で水位低下

井戸など14ヵ所　JR「工事影響」

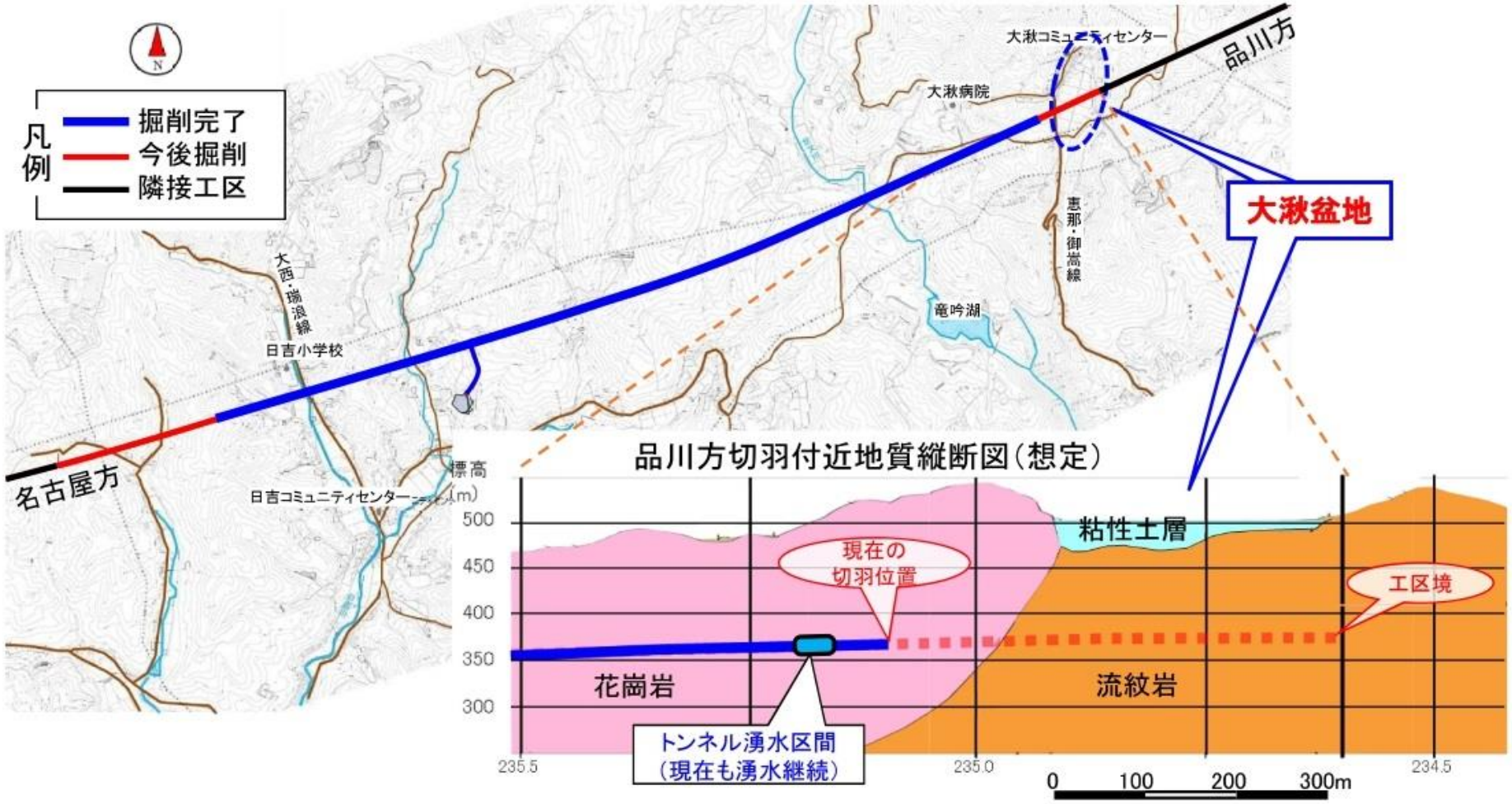
リニア中央新幹線のトンネル掘削工事が進む瑞浪市で、大湫町内にある水道の共同水源や井戸など14カ所で水位の低下が起きていることが14日、JR東海や県などへの取材で分かった。同社は「リニア工事の影響」と認めた上で13日夜に地元説明会を開き、井戸から上水道への切り替えや新たな水源確保などを同社の費用で行う応急措置について説明した。掘削工事は継続するという。県は同社に対し、原因の究明、抜本対策について報告するよう求めた。

【関連記事23面に】

2024年5月15日付中日新聞（左）、岐阜新聞（右）一面より

日吉トンネル（南垣外工区）の概要

- 岐阜県瑞浪市日吉町及び大湫町にまたがる本線延長約7.4kmの工区
- 東側（品川方）切羽の前方に位置する大湫盆地周辺で地下水位の低下が発生



岐阜県環境影響評価審査会地盤委員会 JR東海資料より

住民の証言

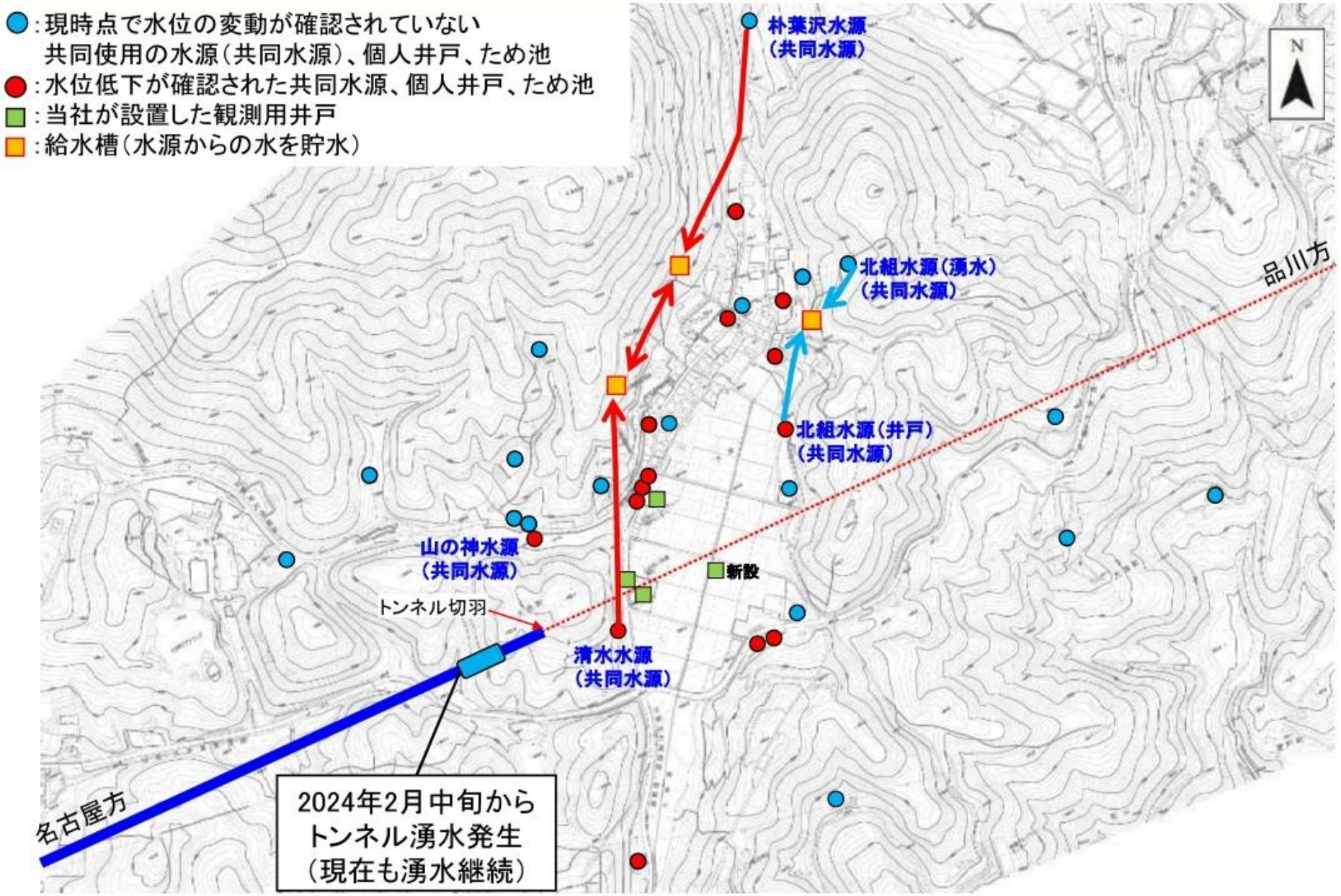
- 池のウシガエルの鳴き声が聞こえなくなった。オタマジャクシがカピカピに
- 井戸が枯れ、トイレだけに使っていた東濃用水を生活用水に切り替えてもらった
- 田んぼの水の引きが早い気がする。水を何度も出し入れする際に心配

水源枯渇、水位低下が拡大

2月20日	当社設置の観測用井戸3箇所で水位低下傾向を確認。
2月26日	地元の方の立会の下、共同水源を確認。5箇所のうち「清水水源」の枯渇を確認。同日、瑞浪市に報告。 ※ その後も瑞浪市には、適宜報告。
3月10日	大湫盆地住民の総会で地元の方へ説明。 共同水源の水位計測、水利用状況に関するアンケートを行うことなどを説明。
4月中旬	「北組水源（井戸）」の水位低下傾向を確認。 周辺の個人所有井戸の水位低下も把握。
4月下旬	応急措置として上水道接続工事を開始。（希望されたご家庭には5月中に完了予定）
5月1日	岐阜県に5月13日の説明会資料を事前説明。
5月13日	大湫盆地にお住まいの方に対し、説明会を開催。 応急対策の実施状況等を説明。

岐阜県環境影響評価審査会地盤委員会 JR東海資料より

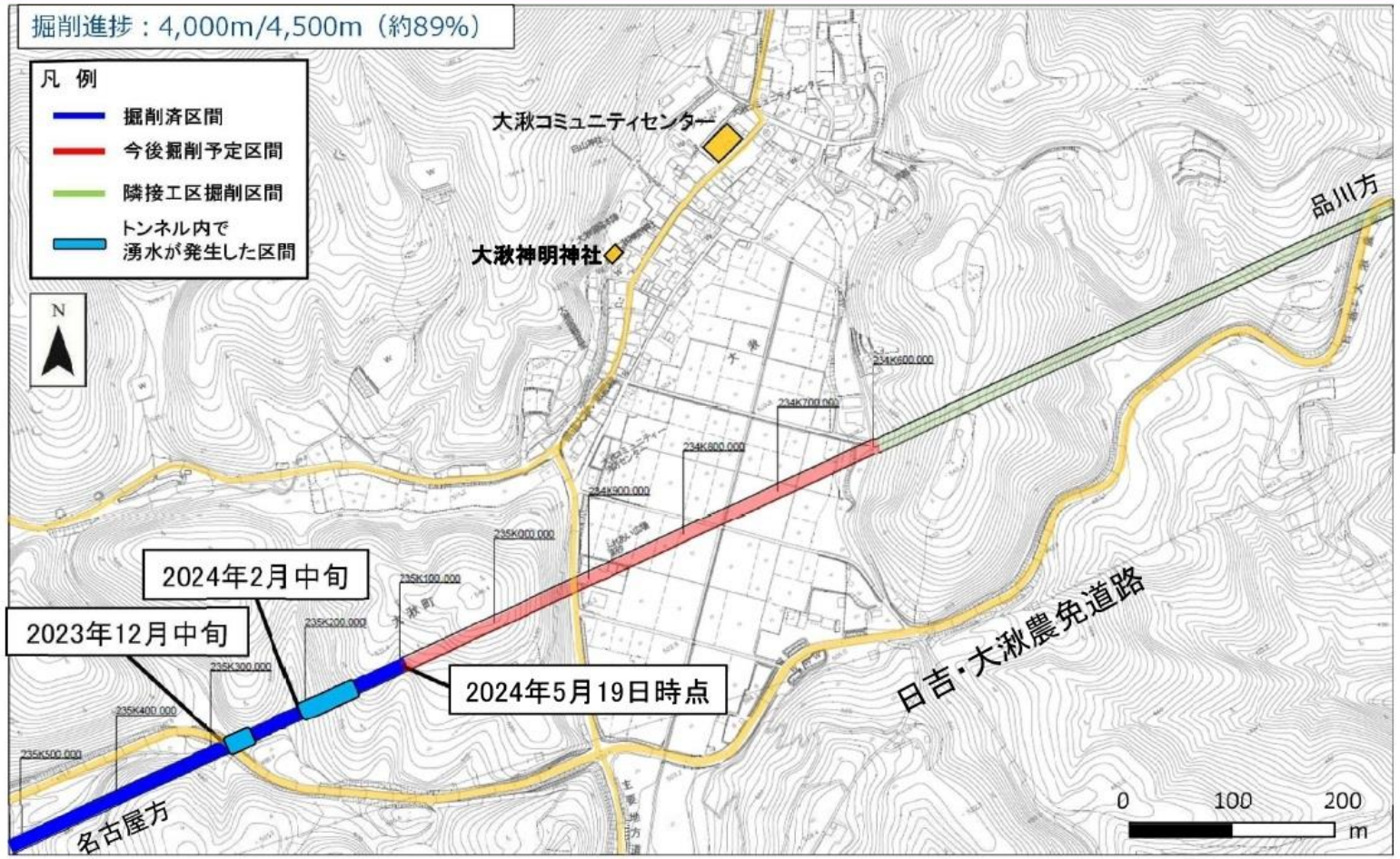
井戸等の地下水位低下の状況



岐阜県環境影響評価審査会地盤委員会　ＪＲ東海資料より

昨年12月、今年2月にトンネル湧水

大湫町内の掘削状況



後手後手のJR東海

- 5月16日（木）丹羽俊介社長が記者会見で、大湫盆地の手前まで約200メートルを慎重に掘削を進めてから工事を止める
- 5月17日（金）瑞浪市が「即時中止」を求める意見書
- 5月20日（月）17日に中断していたことを明らかに

地下水位低下「影響を低減できる」

環境保全への取り組み（水環境に関する工事実施時の環境保全措置※）

- 工事着手前、工事中、工事完了後において、地下水の水位等の状況を定期的に監視し把握することで、地下水位の低下等の変状の兆候を早期に発見し、対策を実施することで影響を低減できる。
- 地下水等の監視の状況から地下水位低下等の傾向が見られた場合に、速やかに給水設備等を確保する体制を整えることで、水資源の継続的な利用への影響を低減できる。
- 低減のための環境保全措置を実施した上で、水量の不足などやむを得ず重要な水源の機能を確保できなくなった場合は、速やかにその他の水源を確保することで、水資源の利用への影響を代償できる。

※ 中央新幹線日吉トンネル新設（南垣外工区）工事における環境保全について（平成28年10月）より抜粋

岐阜県環境影響評価審査会で①

- 2月15日からのトンネル湧水、1日2000立方メートル（25メートルプール約4杯分）
- 5月20日まで、薬液注入はしていなかった
- 水平ボーリングの目的は、「これから掘削するのに、どういう地質になってるか確認するため」
- 「水を止めることで地下水が回復することを期待しているが、必ずしもそうならないこともある」

岐阜県環境影響評価審査会で②

「工事を続けたことで、被害が拡大したのではないか」

梅村哲男・担当部長

「何ともいいがたい」

「水位が低下したのは事実」

「工事は確かに続けておりました」

岐阜県環境影響評価審査会で③

正木英二・瑞浪市みずなみ未来部長

「地域を育んできた大切な資源や歴史を破壊しかねない重大な事態であり、元の環境に戻していただきたいということが、住民の思い」

御嵩町で重要湿地を残土処分場に

スクープ リニア残土問題

岐阜・御嵩町 不都合な事実を伏せた事情

産廃処分場で揺れた町が再び揺れている。今回はリニア中央新幹線を巡る残土処理で、処分場予定地は環境省の「重要湿地」だという。だが、貴重な自然の宝庫であることを伏せたいらしい。そして現代の「焚書坑儒」のような様相も帯びているというのだ。

ジャーナリスト・井

リニア中央新幹線のルート

リニア残土 候補地に重要湿地

岐阜・御嵩町 住民に公表せず

リニア中央新幹線の開発事業に伴う残土の処分場候補地となっている岐阜県御嵩町の山林の一部に、希少な植物が生息する国選定の「重要湿地」が含まれることの事実を公表していない。朝日新聞の取材に、今月内に住民に説明する意向を示した。

リニア開発を進めるJR東海広報部は取材に、候補地となっている地区が重要湿地であることを指摘して

昨秋受け入れ表明

残土処分場候補地

絶滅危惧Ⅱ類 ハナノキなど分布

重要湿地

生物の生息地として環境の大きな湿地や希少種が生息する湿地。国際的に重要な湿地を守る「ラムサール条約」の1999年の締約国会議で、登録湿地の指導を必ずさす決議がなされたことなどを受け、環境省が01年に全国500カ所を選定した。その後、湿地環境の変化などを踏まえて見直しが行われ、16年に改めて633カ所が選ばれた。国際的に重要

残土処分候補地周辺に自生するハナノキ。2人がかりで計測するほどの太さがある＝9月16日、岐阜県御嵩町美佐野

南垣外非常口からはウラン残土も

金曜アンテナ

建設過程で問題が表面化、JR東海は危険性を否定するが……

リニア工事残土でウラン検出

住宅地の真上を通るリニア中央新幹線の巨大な高架橋によって生活が破壊されるとして、山梨県南アルプス市内のリニア建設工事差し止めなどを求め沿線住民が起こした裁判の第1回口頭弁論が7月30日、甲府地裁で行なわれた。JR東海は請求の棄却を求めた。

意見陳述した秋山美紀さん（47歳）は8人の原告の1人。自宅建物の約2メートル南東に、リニア高架橋建設が計画されている。JR東海の計画によると、同市内の高架橋は高さ約20～35メートル。

「最悪な生活環境になるのにもかかわらず、高架橋にかかる土地代と30年分の日陰の補償だけで、『ここに住め。家は買えない』というJR東海の話でした。とても納得できる状況ではありません」

山梨リニア実験線を6月、夫婦で見に行ったことにも言及。「高架橋の下に立ったときの恐怖感は計り知れません。『ここに何十年も住まなければいけないんだね』って話をしましたが、帰りの車内では2人とも黙ったままでした」

JR東海の予測では、周辺の日照が冬至には1時間にも満たなかった。「寒い時期に太陽の恵みをほとんど受けられない。耐えがたい苦しみが一生続く」と述べ、リニアの騒音や、交代勤務の夫が日中の工事の騒音で不眠になるのではないかという不安も口にした。

「リニアで、弊害をまとめたような宅地になってしまう。一生ここに住まなければと考えるだけで、夜も寝付けません。人として最低限の平穏な日の当たる暮らしだけを願っています」と訴えた。

原告代理人の梶山正三弁護士は「元々は正当な補償を求めてきた人たちが（民事調停を経て）『工事を止めろ』に変わった。JR東海には正当な補償を求められないので、工事を止めてもらうしかない」と、提訴の目的を説明した。

ラドン被害の危険性も

「リニア残土微量ウラン　JR東海公表せず」

『しんぶん赤旗』1面をこんな記事が飾ったのは8月5日のこと。岐阜県瑞浪市の日吉トンネル建設工事で掘り出した残土から、放射性物質ウランが検出されていたことが、岐阜県に情報公開請求して入手した資料から判明した、と伝えたものだ。

この地域には、「国内最大の埋蔵量」といわれるウラン鉱床群がある。ウランを掘り出したり、ウラン残土から気体のラドンが染み出たりする危険性は、着工前から指摘されていた。これに対しJR東海は「ルートはウラン鉱床を回避している」「ウラン鉱床のようなウラン濃度が高い土を掘削する可能性は低い」と反論してきた。

岐阜県に問い合わせると、JR東海が昨年6月と今年6月に公表した「環境調査結果」に、ウランやラドンの検出を示すデータが既に記載されていたことが分かった。これによると、ウランは昨年2月から7月に検出され、最大値

岐阜県瑞浪市のリニアトンネル工事現場から残土を運ぶベルトコンベアー。（撮影／井澤宏明）

2019年8月23日付　週刊金曜日